

米川

昔、人は川と接して暮らしてきた
川に面して張り出す出窓やかわど
今、川に背を向け暮らす人が多い
市街地を流れる米川

八月、源流まで川の中を歩いてみた
わずか九キロ

源流から流れてくる水は
行く先々でその表情を変えた

人と顔を会わせながら
ゆつたりと流れる川

人の背ばかりを見ながら
黙々と流れる川

人と出会うことも知らず
木々の緑の間を小躍りしながら流れる川

それは私たちの接し方次第
ふりかえるとき

今ならまにあうのでは…

アメニティニュースVOL.8(1988・9・14発行)



第2回 米川フォーラム

次世代と考える、どうする米川！

目的

多くの観光客が訪れる黒壁周辺にありながら、豊かな自然が残り、地域の暮らしや生業の歩みを刻み込んでいる
キセキの川“米川”。フォーラムでは、“もうひとつの曳山である”^{*}米川について、地域の方はもちろん、関心のある方や
行政と一緒に、様々な取組に学ぶとともに、楽しい未来へとつながるまちづくりを考えます。

※長浜市史第5巻巻報所収「もうひとつの曳山～片野喜代土さんと米川支流」(平成13年刊 琵琶湖博物館研究顧問 嘉田由紀子氏執筆)

日時

令和5年 **12月9日**(土) 午後1時30分～午後4時

場所

さざなみタウン・ながはま文化福祉プラザ・多目的ホール

参加費

無料

定員

50名(申込必要)

申込みはこちら

※事前の申し込みが
必要です



学ぶことから未来をつくる

基調講演

「地域と三島・源兵衛川との関わりについて」

NPO法人グランドワーク三島専務理事 都留文科大学特任教授 **渡辺豊博氏**

三島駅近くを流れる源兵衛川。富士山の湧水を源とする清らかな流れに、飛び石や木道等が設けられ、初夏にはホタルが舞うなど、市民の憩いの場となっている。市民・行政・企業・団体が協働でこの水辺を守っている。



源兵衛川(世界水遺産)

過去を育てることから未来をつくる

◆プレゼンテーション

●地域の米川への地域の関わりについて
ながはまアメニティ会議 松居弘次氏

●米川で学び、提案したいこと
滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科
フィールドワークⅡB
滋賀県立大学受講生
担当教員 平岡俊一氏(同学部准教授)

◆ハマコン

※ハマコン(HAMACON):
より良いアイデアをだすブレインストーミング
コーディネーター
長浜市総務部広報報道課 安藤和人氏

申し込み
問い合わせ先

長浜まちなか地域づくり連合会

☎0749-64-2753

長浜市高田町12-34ながはま文化福祉プラザ内 ✉ntd.rengoukai@gmail.com



夏原グラント

この事業は平和堂財団環境保全活動助成事業
「夏原グラント」の助成を受けて実施しています